

ソニー幼児教育支援プログラム「科学する心を育てる」最優秀園 実践発表会 開催レポート

令和6年11月2日（土）、ソニー幼児教育支援プログラム「科学する心を育てる」最優秀園の実践発表会を、本園の第34回幼児教育研究集会と兼ねて開催しました。全国各地から申し込んでくださった参加者と、県の市町幼児教育アドバイザー養成研修生、講師の先生方、本園の研究助言者・協力者、来賓の方々等、総勢約200名が来てくださいました。



発表会概要

1. 日時：2024年11月2日（土）
2. 会場：福井大学教育学部附属幼稚園
3. 主題：つながりが育む学びの深まり ―好きが広がり、世界をひらく―（3年次）
4. 主催：国立大学法人 福井大学教育学部附属幼稚園、公益財団法人 ソニー教育財団
5. プログラム
 - 1) オリエンテーション
 - 2) 公開保育
 - 3) 研究発表会
 - 4) 年齢別研究会
 - 5) 鼎談「好きが広がり、世界をひらく幼児教育」
無藤隆氏／白梅学園大学 名誉教授
秋田喜代美氏／学習院大学 教授
松木健一氏／福井大学 理事（副学長）

プログラム概要

<オリエンテーション> 8:50～9:00

本日の日程や、保育参観時のお願い等についてお伝えしました。

<公開保育> 9:00～11:00

雨天だったため、外での遊びを見ていただくことができませんでしたが、各年齢の保育室や遊戯室での「好きな遊びの時間」と「みんなの時間」を参観していただきました。

すきな遊びの時間の様子

		
年少：お寿司屋さん	年中：くもの巣に	年長：工作遊び

		
年少：リボン屋さん	年中：鉄棒遊び	年長：ロケット飛ばしたいな
みんなの時間の様子		
		
年少：ロケット発射！	年中：どんな新幹線作ったの？	年長：ライトテーブルを囲んで

<全体会①> 11:10～12:20

本園の牧田園長の挨拶、ソニー教育財団の根本会長からのご挨拶、来賓紹介に続いて、本園の研究主任から、本園の研究の取組と、宇宙研究所を中心とした宇宙遊びについて紹介しました。その後、講師の先生方から本園の保育論文について一言ずつお話をいただきました。

無藤先生からは、「宇宙研究所の遊びがどういう意味で科学する心を育てるかと言われると、なんとなくもやっとする…科学につながることはなんだろう。科学への芽生えの始まりは、まず『好き』になること…子どもたちが、まだ何も分からない不思議な未知なところに謎があり、謎があることを楽しみ、いつか謎を追求することを楽しみたいなど、科学する心がそこまで踏み込んでいく福井大学附属幼稚園の取組」というお話をいただきました。

松本先生からは、「この取組（宇宙遊び）は、材の捉え方を覆した。…金魚と蚕なら、子どもの追求を促すのは蚕。子どもの働きかけに応じて材が変化し、成長がある。…宇宙は働きかけることも、触れることも、操作することもできない材。幼児には不向きだと思っていたが、固定概念をひっくり返してくれた。」と始まるお話をいただきました。

ソニー教育財団からの講師として来ていただいた秋田先生からは、本園の論文が、2023年度の最優秀園の2園に選ばれた理由も含めて、「主題の独自性、科学する心と愛、サイエンスとラブ…22～23年間応募論文を読んできているけれど、宇宙を取り上げてここまでやったものは、私の知る限りここ1件。…論文は、すべて子ども目線の子供のつぶやきでタイトルが書かれている。長期的につながっているのがとても珍しい。子供の経験の物語がずっと宇宙。…」というお話をいただきました。

		
全体会の会場の様子	牧田園長の挨拶	根本会長のご挨拶

		
無藤 隆 先生	松木 健一 先生	秋田 喜代美 先生

<昼食時間の動画上映> 12:20～13:00

- ・福井大学教育学部附属義務教育学校のお二人の先生と本園研究主任とが、本園の論文や幼小接続、科学等について対談した動画を上映しました。

◇前期課程の五十嵐浩介先生（前期課程・研究主任・接続主任）

◇後期課程の佐々木康順先生（後期課程・理科・SSTA（ソニー科学教育研究会 福井支部事務局）



<年齢別分科会> 13:05～14:30

各年齢の保育室で、年齢別分科会を行いました。

4～5人のグループに分かれてのグループ協議では、福井県幼児教育支援センターで今年度の市町幼児教育アドバイザー養成研修受講者が、各グループのファシリテーターとして入ってくださいました。

グループ協議・共有タイム後は、各年齢の指導者からの講評をお聞きしました。3歳児の分科会には、根本会長はじめソニー教育財団から来られた方が参加してくださったので、その3名の方にも急遽、お話をお願いさせていただきました。「五感、六感まで働かせて物を見ること…自分が感じたことと思ったことを人に伝えること、科学する二つの大きなプロセス。こういうことを幼少の時にやっていたらいい」ととても嬉しい。「振り返りを面白く見させてもらった…子供たちの好きを見取ってつなげていってあそこまでもっていく先生の力量が素晴らしい」といったお言葉をいただいたり、逆に「先生が子供の思いの変化に気付くコツを教えてほしい」と質問をいただいたりしました。

		
本日の保育について	グループ協議 共有タイム	指導者講評（年少保育室では、ソニー教育財団の方からも）

<全体会②・鼎談> 14:40～16:05

全体会②では、85分という短い時間で、無藤先生、秋田先生、松木先生という素晴らしい3人の先生方から、濃厚なお話をお聞きしました。

無藤先生は、ソニー教育財団がまとめている実践事例集の本園のページのタイトルの『『愛』によって広がる無限の宇宙』という言葉を挙げられながら、「好きが広がり濃密になっていくと、愛になっていく。要するに一言で、子供が世界を愛して分かってく過程を『愛と知の循環』、まわりのものをどんどん好きになって分かっていく、好きになる、愛する、面白い、カッコいいという気持ちが起る。いろいろなも

のについて起こる。幼児の間に育てていく。別の言い方で。周りにある物事への共感、驚き。センスオブワンダー」というように「愛」という言葉を出して話し始めてくださいました。

秋田先生のお話の中では、今日の子供の姿から、「遊びの時間をどのようにその子のペースで過ごすのか。その子の中での思い、動きやまなざしの中にこだわりがある。一人一人がこだわりを持って作れる場。(教師は) 援助していないわけではない。その子の心の中に何が動いているのか。声掛けばかりを気にしなくてよい。子供のまなざしがどこを向き、イメージがどうなっているのかが大事。動き始めてからの声掛けで良い。子供の動きと周りが見えてくる。子供一人一人の工夫が出せるように材があること。好きになるかもしれない種をまいていく。好きだけを大事にすると失敗する。好きの幅が狭いと広がっていかない。世界に対して何に出会ってほしいのか。好きになるかもしれない種まきを多様にしていくことを大事にする」というものがありました。

松木先生からは、年齢別分科会の参加者の様子を見て嬉しくなったというお話もありました。「(先生方は) 自分が見取った子供の姿について語り合うことが本当に楽しそうだった。子供の文脈で子供の活動を読み取って他の方と共有することが専門職の成長に最も大切なことだ、このことを大切にしなければならないと再認識した」と話されていました。また、「他者との段階を追った確定共有が協働を生み出す」ことについて、「子どもは、いっぺんに協働ができるようになるのではない。協働には、乳児から小学校高学年に至る協働の発達プロセスがある」と話され、「共振：感情を共有する」「共同：行動を共有する」「協同：目的（めあて）を共有する」「協働：仲間意識を共有する、課題意識を共有する」という段階を図で示しながらのお話もありました。



<参加者のご感想>

【保育を見た感想から】

- ・子どもたちが自分の好きを探究し、主体的に生き生きと活動している姿が印象的でした。教師は子どもたちの「やりたい」を実現できるように伴走しながら、援助している姿もとても素敵だなと感じました。たっぷりと自己実現できる環境や時間が保障され、子どもたちが安心して活動に取り組める附属幼稚園の素晴らしさに感動しました。また、みんなの時間を初めて参観させていただきましたが、自分がこんな遊びをしたよ、こんな発見があったよということをみんなで共有し、そこから興味関心が広がり、好きにつながるのだとあらためて感じました。子どもたちの「好き」を教師が見逃さず、丁寧に向き合うことの大切さを学びました。ありがとうございました。
- ・今日の保育での先生方子どもへの関わりを見て、個と集団をつないだからこそ、面白空間である「宇宙研究所」ができたのではないかと思います。どの子のこだわりも価値ある大切な物として、先生方が丁寧に関わってきた証拠なんだろうなと感じました。
- ・事前にいただいた資料、当日の展開などを読んで、想像した通りの保育だった。そこまで伝えられる資料がすごいと思った。これが本物かと思った。子どもたちが真剣に取り組む顔がたくさんみられた。よかった。環境の考え方、何を育むもうとして環境を作るのかを学んだ気がした。

【全体会①の感想から】

- ・講師が大変豪華で贅沢な時間であった。先生方が話されるできるだけ全部をしっかりと理解して自分

の力にしたり、自園に持ち帰って共有したりしたいと思った。

- ・講師の先生方のお話は、とても分かりやすく、心に入ってきました。どの先生も子どもたちに対する優しさと、現場の先生方に対する「愛」が感じられ、やはり人への愛が根幹になれば、幼児教育はできないということを実感しました。
- ・印象に残ったことは、出会いと気付きの積み重ねの先に「好き」があるということを知ったことでした。出会いは園の中であって、でも出会っていても気付かなければ「好き」にはなっていないかもしれない。しかし、みんなの時間の中で共有することで、知らなかった子どもも知るきっかけになり、そこから広がっていく。子どもたちが「好き」に出会える、学びを支えるための安心空間、幸せ空間、面白空間の園環境があるからこそ、子どもたちが夢中で探究できるのだなと感じました。
- ・宇宙研究所の事例、とても興味深かったです。遊びを広く、深く展開するためには、先を見越した、多様な準備が必要なものも改めて感じました。来年度、幼稚園へ就職しますが、子どもたちと一緒に何かに夢中になる楽しさを早く味わいたいです。

【年齢別分科会の感想から】

- ・年齢別だったので、絞って話をすることができ、場面など話題を共有することができました。附属幼稚園の先生、質問に答えてくださりありがとうございました。「子どものその瞬間に応えたい！」という言葉、素敵です。
- ・様々な視点から子どもたちの姿や考え方について語り合うことができ、自分の中での新しい発見や気づきに繋がりました。それぞれ見ていた場面が違って、それを伝え合え、知ることができて大変有意義でした。
- ・グループ皆さんの様々な視点から保育を見ての感想を聞いて、これからの保育に向けてのモチベーションが上がりました。今回、公開保育においての視点を設定していただいことがとても良かったと思いました。見る観点が絞られたことで、短時間で有意義な話し合いができたと感じました。附属幼稚園の先生方も悩みながら進めてらっしゃると聞いて、同じなのだと思います。心が軽くなりました。ソニー財団の先生方、助言者の先生方のお話もとても良かったです。
- ・好きに出会うとは？と好きの捉え方について、話し合いました。子どもによって好きな捉え方は違うだろうけど、みんな真剣に夢中になって遊べる環境があること、それが、好きを共有するための環境にもつながっているのだろう。この活動が小学校以降の探究にもつながり、子ども同士の資質・能力を高めあうことにつながっていくのではないかと感じました。

【全体会②・鼎談の感想から】

- ・無藤先生、秋田先生、松木先生の附属の具体的実践をもとに保育の本質に触れて話をたくさん聞くことができて大変有意義な時間でした。
- ・無藤先生、秋田先生、松木先生3人のとても贅沢で大切な話を聞くことができた。どこをとっても今の幼児教育で大切なことを話してくださったと感じた。また、次回もお願いしたい。
- ・保育の「愛」について学び、改めて保育って素晴らしいなと感じた反面、幼児期の私達保育者の関わりの重要性を学び、引き締まる思いです。できることから、取り組んでいきたいです。
- ・無藤先生の「愛と知」のお話から始まりましたが、先生方のお話を聞かせていただいて、子どもの「好き」を引き出していくものは、保育者の子どもへの愛情であり、いかに目の前の子どもを愛し、子どもの考えていることを保育者が知ろうとすることが出来るかだろうと思いました。子どもへの興味関心、保育者の探究心、それらが子どもの学びや世界を広げていくと思いました。
- ・“愛”というキーワードが心に染みしました。好きが愛に繋がっていく・・・私達も愛を持って、一人ひとりその子らしさを見出し、その子の尊厳や学ぶ権利を大切に保障していきたいと思いました。無藤先生、秋田先生、松木先生の素晴らしい先生方のお聴きすることができ、貴重な時間となりました。

福井大学教育学部附属幼稚園の取組紹介

本園では、随時、研修や視察を受け入れております。また、保育の質向上プロジェクトとして、園内の研究会への参加や保育体験研修等も受け入れております。どうぞ本園ホームページの「研修・視察」のページ（<https://www.f-edu.u-fukui.ac.jp/~fuzokuyo/training/>）をご覧ください。